



私の研究

Music as a tool for Language Education

言語教育ツールとしての音楽

Kim Rockell (キム・ロッケル)

公立大学法人会津大学 語学研究センター
准教授



1. はじめに

私は、会津大学の語学研究センター（CLR）の准教授として、学生の英語コミュニケーション能力の開発を担当しています。ここでは、私の音楽家・音楽研究者としての専門性を生かして、語学学習に音楽的手法を取り入れ、学生のためになる学習方法を研究しています。会津大学はコンピュータ理工学が専門なので、私の研究においてもコンピュータが非常に役立っています。私は、それをコンピュータ・アシステッド・ランゲージ・ラーニング・インコーポレーティング・ミュージック（コンピュータ利用による音楽導入の言語学習（CALLiM））と呼んでいます。

大多数の人は、音楽を、私たちの生活を豊かにする芸術又は娯楽と捉えています。確かにそれも音楽の重要なシンボル、あるいはアイデンティティです。すなわち、世界中の様々な人たちが大事にしてきた、文化的価値や美的感覚を保存・伝達するための手段としての在り方です。しか

し、あまり知られてはいませんが、音楽療法などといった領域もあります。そこでは、音楽活動は、身体的にも心理的にも明らかな健康効果をもたらすと考えられています。そして最も重要なのは、音楽は、多くの重要な分野で教育効果を高めるために利用されると、そのパワーを発揮するということです。語学教育もその一つです。

語学学習に音楽的手法を取り入れることによる主な効果は次のとおりです。

- リズム、アクセント、イントネーションへの意識を高めることによる発音の向上



図1 会津大学の研究室で CALLiM の実験を行う
ロッケル准教授

- 語いの想起能力（言葉を思い付く力）の向上
- より楽しく学習でき、自信も高まる
- 社交性と参加率の向上

2. リズミック・メロディック・リキャリブレーション・メソッド（リズムとメロディの再調整法（RMR））

CALLiMで、これらの効果をより高めるための主な2つのアプローチが、リズミック・メロディック・リキャリブレーション・メソッド（リズムとメロディの再調整法（RMR））とルーピング・オブ・レクシカル・チャンクス（字句チャンクのループ法（LLC））です。

RMRは、人間の話し言葉における抑揚とアクセントは、音楽でいうメロディとリズムに非常に近いものであるという考えに基づいています。

話し言葉は、多少調整するだけでメロディに変換することができます。簡単な英文「Mozart is a famous composer（モーツァルトは有名な作曲家である）」を例に挙げてみましょう。まずはこの自然な発音のリズムを調整して、次のようにリズムを決定します。

Mo-zart is a fa-mous com - po-ser



次に、ピッチの変化や自然音声の抑揚を考慮して、下に示すようなメロディを決定します。

Mo-zart is a fa-mous com - po-ser



このように、自然な話し言葉の抑揚に合ったメ

ロディを楽しく練習することで、学生の発音が向上します。

3. 「Loopy（ルーピー）」を用いたルーピング・レクシカル・チャンクス（字句チャンクのループ法（LLC））

RMRでメロディが決定したら、次にLLCを使って練習することができます。LLCでは、学生が少人数のグループになり、iPadやiPhoneなどのような手持ちデバイスで、音源を繰り返し再生するアプリを利用して協力して短文を作ります。この練習では、語いの想起能力（言葉を思い付く力）を強化し、自信と社交性を養うことができます。

学生が作文をするためには、「Loopy（ルーピー）」という音楽再生アプリが非常に役に立ちます。これは、オーストラリア人のマイケル・タイソン氏が2008年に開発を始めたものです。このアプリを使えば、シンプルなトラックを6つまで録音し、それらを同時に再生することができます。録音中にできるのは、主にメトロノーム（テンポを刻むトラック）、ループ時間、速度・拍子などの操作です。

メトロノーム機能は、学生が正しい強勢アクセントを発声するために重要で、英語においては特に重要です。なぜなら、英語は「強勢拍リズム」の言語といわれているからです。また、速度・拍子を操作できる機能は、学生の言語プロジェクトで、別々のトラックを繋ぎ合わせて調整するのに便利です。図2の画像はアプリのユーザーインターフェースです。ご覧のとおり基本的な操作は非常に簡単です。それぞれの円は、トラックを表しています。

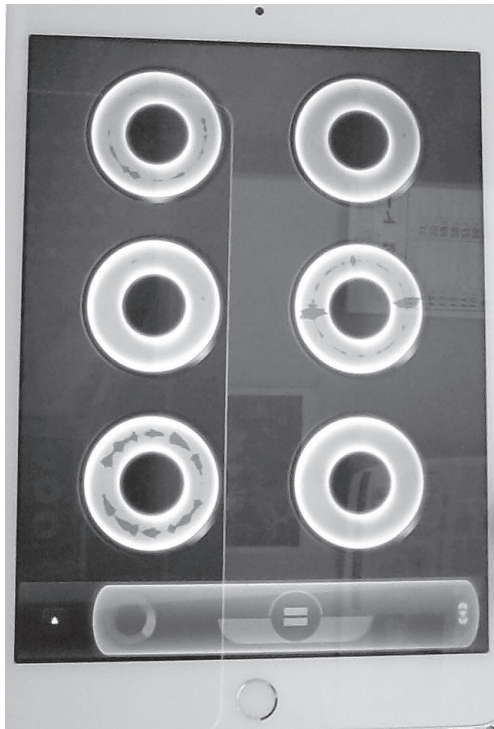


図2 Loopy のユーザーインターフェース

LLCでLoopyを使用している学生からは、好感触を得ています。日本人の学生は、語学の授業中には恥ずかしがって静かになりがちです。そこで、こういった音楽的手法を学習に取り入れることは、内気さを克服し、英会話を楽しむために非常に有効な手段であるといえます。

4. おわりに：大学教員として福島で働くことの更なる利点

私は会津大学の研究者として日本で過ごす機会が得られて、とても幸運に思っています。教壇に立つ傍ら、私もまた学生から日本について多くのことを教わり、世界各地から集まった優秀な研究者たちと共に働くことができるからです。また、会津若松市に住んでいるお陰で、日本の伝統音楽にいくらかでも触れる機会にも恵まれています。2015年から、私は佐藤ヨシカ先生のもとで、能を習い始めました。能を習って分かったことは、単に歌ったり話したりする以外にも、例えば歌うような、朗読のような語り方という、言葉を明瞭に発音する方法があるということです。これらは、英語学習にも当てはめることができます。私は近い将来、学生がRMRやLLCのプロジェクトを進める中で、英語の話し言葉の練習をする際に、そういった発話スタイルにも挑戦するよう勧めていくつもりです。

<プロフィール>

Kim Rockell (キム・ロッケル)

1969年、ニュージーランド、クライストチャーチ出身。同国のカンタベリー大学にて、博士奨学金を受けて博士号を取得。また、2010年には、アジアニュージーランド基金の大学院生賞を受賞し、シンガポール、台湾、フィリピン、オーストラリアでの研究を行った。博士課程在籍中には、イギリスのオックスフォード大学ウルフソンコレッジでの外部研究者も務めた。現在は、日本在住のウルフソンコレッジ卒業生の代表となっている。